

## アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成22年度 実施計画書

### 1. 拠点機関

日本側拠点機関:	筑波大学北アフリカ研究センター
(チュニジア) 拠点機関:	スファックス大学
(アルジェリア) 拠点機関:	ハウアリブーメディエン科学技術大学
(モロッコ) 拠点機関:	カディアヤド大学
(エジプト) 拠点機関:	カイロ大学

### 2. 研究交流課題名

(和文): 北アフリカ有用植物の高度利用による地域開発を目指した文理融合型

学術基盤形成 (交流分野: 開発経済学、宗教学、文化人類学、文学、バイオサイエンス、食品工学、生態学)

(英文): Establishment of Integrative Research Base by Humanities and Sciences on Valorization of Useful Plants for Regional Development in North Africa

(交流分野: Development Economics, Religious Studies, Cultural Anthropology, Literature, Bioscience, Food Science, Ecology)

研究交流課題に係るホームページ: <http://www.arena.tsukuba.ac.jp/>

### 3. 採用年度

平成22年度 (1年度目)

### 4. 実施体制

#### 日本側実施組織

拠点機関: 筑波大学北アフリカ研究センター

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名): 北アフリカ研究センター・センター長・中嶋 光敏

コーディネーター (所属部局・職・氏名): 北アフリカ研究センター・助教・柏木 健一

協力機関: なし

事務組織: 北アフリカ研究センター事務室

#### 相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国 (地域) 名: チュニジア共和国

拠点機関: (英文) Sfax University

(和文) スファックス大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Headquarters, President and Professor,  
Hamed Ben Dhia

（２）国（地域）名：アルジェリア民主人民共和国

拠点機関：（英文） Houari Boumedine University

（和文） ホウアリブーメディエン科学技術大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Headquarters, President and Professor,  
Benali Benzaghoul

（３）国（地域）名：モロッコ王国

拠点機関：（英文） University of Cadi Ayyad

（和文） カディアヤド大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Faculty of Agricultural Sciences, Professor,  
Abdellatif Hafidi

（４）国（地域）名：エジプト共和国

拠点機関：（英文） Cairo University

（和文） カイロ大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Faculty of Arts, Professor,  
Karam Khalil

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

本研究交流の日本側拠点機関である筑波大学北アフリカ研究センターは、北アフリカ地域を地中海沿岸から半乾燥、乾燥地帯へと変化する高い乾燥傾度に適応した貴重かつユニークな生物資源の宝庫として重視し、北アフリカ在来の有用植物を持続的発展に有効利用する多角的研究を推進してきた。同センターでは、オリーブ、アロマ植物等の北アフリカ原産の有用植物が持つ機能性の解析によって、食品、化粧品、医療品等の産業育成につながるシーズを生命科学の研究者が中心となって分析してきた。

本研究交流では、北アフリカ地域固有の産業化シーズを高度利用することによって、地域に埋め込まれた伝統・文化、イスラームの人間観・世界観と統合的な開発、地域開発からイスラーム社会の持続的発展と北アフリカ地域の安定を導くメカニズムの探求を研究課題の軸とし、人文社会科学分野の研究者が主導して文理融合型研究交流を展開する。

特に、産業化シーズ開発と北アフリカの伝統・文化との整合性、シーズ開発技術の地域社会への定着性・持続可能性を多面的に解析し、①文系主導による共同研究の実施、②文理融合研究の素養を持つ若手研究者の派遣・招聘、③共同研究の成果を報告する文理融合型国際セミナー開催を通し、若手研究者が主導して北アフリカ総合研究の基盤を形成する。

これにより、高度の専門性と文理融合研究の素養、専門性の高度化に必要な俯瞰力・実践力・構想力を持つ若手研究者の育成を図り、筑波大学が採択された国際化拠点整備事業（グローバル 30）とも連動して、北アフリカと日本をつなぐ教育・研究・知的国際協力のネットワークを完成させる。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 22 年度から開始

（本研究交流の相手国拠点機関であるモロッコ・カディアヤド大学及びアルジェリア・ホウアリブーメディン科学技術大学とは、平成 22 年 3 月 2 日に国際交流協定を締結した。なお、エジプト・カイロ大学、チュニジア・スファックス大学とは既に交流協定締結済み。）

## 7. 平成 22 年度研究交流目標

本研究交流では、以下①及び②の実施によって、北アフリカ地域を共通のフィールドとした文理融合型研究の基盤を築くことを目標とする。

- ①共同研究・研究者交流：北アフリカ諸国の研究者と、(a) 北アフリカ有用植物探査チーム、(b) 北アフリカ有用植物機能性解析チーム、(c) 北アフリカ有用植物高度利用チームの 3 研究チームを結成し、乾燥地有用植物を活用した持続的発展モデルの構築を共通の到達目標として、共同研究を開始する。また、その実施のために、北アフリカの拠点機関の研究者を日本に招聘し、日本人の研究者を拠点機関に派遣し、若手研究者がイニシアティブをとって共同研究を開始すると同時に、文理融合的素養を持つ人材の育成を図る。
- ②セミナー等学会会合の開催：北アフリカ諸国から招聘した若手研究者が中心となり、筑波大学北アフリカ研究センターにてセミナーを開催し、共同研究の成果と展望を発表する。平成 22 年度は初年度であるため、二国間の枠組もしくは研究課題ごとのセミナーを開催する。これにより、日本国内において、北アフリカ有用植物の研究に関するネットワークと基盤を強化する。また、最終年度に向けて、本研究交流の成果を多国間・多分野間で総括する学会会議を日本で開催するための準備を重ねていく。

## 8. 平成 22 年度研究交流計画概要

### 8-1 共同研究

本研究交流では、北アフリカ諸国の研究者と上記 7. ①の 3 チームを結成し、以下の共同研究を開始する。

- ①北アフリカの伝統的植物の近代的価値に関する調査研究：文化人類学、哲学・思想、宗教学、文学等の研究者が、北アフリカ地域の民間伝承や伝統医薬、食文化に関する聞き取り調査と文献研究を展開し、それを基に北アフリカ固有の植物の効用を伝承レベルで発掘する。
- ②北アフリカ食薬資源植物の持続的利用に関する研究：生態学、植生学、乾燥地環境工学等の研究者が、北アフリカ地域の生育する食薬資源植物の持続的な利用を目的とした生態試験を行う。また、北アフリカにおける食薬資源植物の利用状況や気候、水資源、土壌等の生育環境を調査し、現地生産体制の基盤形成を目指して、その持続的利用のための条件を解析する。
- ③北アフリカ由来食薬資源の生理活性機能の評価：バイオサイエンスの研究者が発掘された有用植物の生理活性、有用成分の機能性を解析・特定し、伝承レベルの機能性を科学的に立証する。
- ④北アフリカにおける先端技術を応用した高付加価値化食品製造システムの開発：バイオサイエンス、食品工学の研究者が、有用植物の生理活性成分と北アフリカの植生、水資源、土壌等の諸条件との関連性、先端技術を駆使したその高度加工利用、食品製造システム開発のための条件を解析する。
- ⑤北アフリカにおける有用植物の高度利用と地域発展モデルの構築：開発経済学、農業経済学等の研究者が、有用植物の高度有効利用と産業化へのスケールアップの条件を調査し、北アフリカの有用食薬資源を利用した地域開発モデルの構築を目指す。

## 8-2 セミナー

若手研究者が中心となり、北アフリカの拠点機関と協力の上、筑波大学北アフリカ研究センターにてセミナーを開催し、上記8-1で提案した共同研究の成果と展望を発表する。

## 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

予定なし

## 9. 平成22年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	エジプト 〈人／人日〉	チュニジア 〈人／人日〉	モロッコ 〈人／人日〉	アルジェリア 〈人／人日〉	合計
日本 〈人／人日〉		2/20 (1/7)	1/7 (7/71)	3/30 (1/7)	3/37	9/94 (9/85)
エジプト 〈人／人日〉	2/37 (1/7)		0/0	0/0	0/0	2/37 (1/7)
チュニジア 〈人／人日〉	1/7 (6/42)	0/0		0/0	0/0	1/7 (6/42)
モロッコ 〈人／人日〉	8/61	0/0	0/0		0/0	8/61
アルジェリア 〈人／人日〉	1/7 (1/10)	0/0	0/0	0/0		1/7 (1/10)
合計 〈人／人日〉	12/112 (8/59)	2/20 (1/7)	1/7 (7/71)	3/30 (1/7)	3/37	21/206 (17/144)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は( )をのぞいた人・日数としてください。)

### 9-2 国内での交流計画

12/147 〈人／人日〉
---------------

## 10. 平成22年度研究交流計画状況

### 10-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成22年度	研究終了年度	平成24年度																																																									
研究課題名	(和文) 北アフリカにおける伝統的植物の近代的価値に関する調査研究 (英文) Study of Modern Values on Traditional Usage of Bio-resources in North Africa																																																													
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 岩崎真紀・北アフリカ研究センター・研究員 (英文) Maki Iwasaki, Researcher, The Alliance for Research on North Africa, University of Tsukuba																																																													
相手国側代表者 氏名・所属・職	・チュニジア：Hajer Ben Hadj Salem, Faculty of Letters, University of Sfax ・モロッコ：Abdelhamid Lotfi, Vice President for Academic Affairs, Al Akhwayn University ・エジプト：Karam Khalil, Professor, Faculty of Arts, Cairo University																																																													
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>派遣先</th> <th>日本</th> <th>エジプト</th> <th>チュニジア</th> <th>モロッコ</th> <th>アルジェリア</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣元</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> </tr> <tr> <td>日本</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>1/10</td> <td>(1/14)</td> <td>1/10</td> <td>1/20</td> <td>3/40 (1/14)</td> </tr> <tr> <td>エジプト</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>1/7</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>1/7</td> </tr> <tr> <td>チュニジア</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>(1/7)</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>(1/7)</td> </tr> <tr> <td>モロッコ</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>1/7</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>1/7</td> </tr> <tr> <td>アルジェリア</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>&lt;人/人日&gt;</td> <td>2/14 (1/7)</td> <td>1/10</td> <td>(1/14)</td> <td>1/10</td> <td>1/20</td> <td>5/54 (2/21)</td> </tr> </tbody> </table> ② 国内での交流 3人/21人日					派遣先	日本	エジプト	チュニジア	モロッコ	アルジェリア	計	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	日本	<人/人日>	1/10	(1/14)	1/10	1/20	3/40 (1/14)	エジプト	<人/人日>	1/7	0/0	0/0	0/0	1/7	チュニジア	<人/人日>	(1/7)	0/0	0/0	0/0	(1/7)	モロッコ	<人/人日>	1/7	0/0	0/0	0/0	1/7	アルジェリア	<人/人日>	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	合計	<人/人日>	2/14 (1/7)	1/10	(1/14)	1/10	1/20	5/54 (2/21)
派遣先	日本	エジプト	チュニジア	モロッコ	アルジェリア	計																																																								
派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>																																																								
日本	<人/人日>	1/10	(1/14)	1/10	1/20	3/40 (1/14)																																																								
エジプト	<人/人日>	1/7	0/0	0/0	0/0	1/7																																																								
チュニジア	<人/人日>	(1/7)	0/0	0/0	0/0	(1/7)																																																								
モロッコ	<人/人日>	1/7	0/0	0/0	0/0	1/7																																																								
アルジェリア	<人/人日>	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0																																																								
合計	<人/人日>	2/14 (1/7)	1/10	(1/14)	1/10	1/20	5/54 (2/21)																																																							
22年度の研究交流活動計画	日本側研究者と相手国側研究者が北アフリカ諸国にてフィールドワークを行い、北アフリカの伝統的植物に関する民間伝承や伝統医薬、食文化について聞き取り調査と文献研究を展開する。また、北アフリカ諸国より研究者を日本に招聘する。これにより、北アフリカの固有の食薬植物の伝統的価値や利用法、効用を分析する。																																																													
期待される研究活動成果	近代的薬剤や近代医療への信頼が増す中、北アフリカ固有の食薬植物に関して民間伝承や伝統医薬、食文化を調査することにより、その伝統的利用、服用方法、儀礼的使用、機能・効用等が明らかになり、同植物が持つ伝統的価値が解明され、北アフリカ原産の伝統的植物に近代的価値と新たな役割を見出すことができる。																																																													
日本側参加者数	4名 (13-1 日本側参加者リストを参照)																																																													
エジプト共和国側参加者数	2名 (13-5 エジプト共和国側参加者リストを参照)																																																													
チュニジア共和国側参加者数																																																														

1 名	(13-2 チュニジア共和国側参加者リストを参照)
モロッコ王国側参加者数	
1 名	(13-4 モロッコ王国側側参加者リストを参照)
アルジェリア民主人民共和国側参加者数	
0 名	(13-3 アルジェリア民主人民共和国側参加者リストを参照)

整理番号	R-2	研究開始年度	平成 22 年度	研究終了年度	平成 24 年度		
研究課題名	(和文) 北アフリカ食薬資源植物の持続的利用に関する研究						
	(英文) Research on Sustainable Use of Bio-resources in North Africa						
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 川田清和・北アフリカ研究センター・助教						
	(英文) Kiyokazu Kawada, Assistant Professor, The Alliance for Research on North Africa, University of Tsukuba						
相手国側代表者 氏名・所属・職	・チュニジア：Abderrazak Smaoui, Professor, Borj Cedria Science and Technology Park						
	・アルジェリア：Hacene Abdelkrim, Professor, Institute National Agronomy ・モロッコ：Mohamed Alifriqui, Professor, University of Cadi Ayyad						
交流予定人数	① 相手国との交流						
(※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	派遣先	日本	エジプト	チュニジア	モロッコ	アルジェリア	計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本		0/0	(1/10)	1/10	1/10	2/20 (1/10)
	エジプト	0/0		0/0	0/0	0/0	0/0
	チュニジア	(1/7)	0/0		0/0	0/0	(1/7)
	モロッコ	1/7	0/0	0/0		0/0	1/7
	アルジェリア	1/7	0/0	0/0	0/0		1/7
	合計	2/14 (1/7)	0/0	(1/10)	1/10	1/10	4/34 (2/17)
	② 国内での交流						
	3人/21人日						
22年度の研究交流活動計画	日本側研究者と相手国側研究者が北アフリカ諸国にてフィールドワークを行い、野生に生育する食薬資源植物の持続的な利用を目的とした生態試験を行う。また、将来的に食薬資源植物の現地生産体制の基盤を形成するため、資源植物の利用状況に関する情報収集を行う。						
期待される研究活動成果	北アフリカ地域の食薬資源植物が利用目的で刈り取られる程度によって、どのような影響を受けるのかを明らかにすることができ、それを持続的に利用するための具体的な対応策を提案することができる。また、食薬資源植物の安定供給を図るための圃場候補地を探し、生産体制の基盤形成をする。						
日本側参加者数							
	3名	(13-1 日本側参加者リストを参照)					
エジプト共和国側参加者数							
	0名	(13-5 エジプト共和国側参加者リストを参照)					
チュニジア共和国側参加者数							
	3名	(13-2 チュニジア共和国側参加者リストを参照)					
モロッコ王国側参加者数							
	1名	(13-4 モロッコ王国側側参加者リストを参照)					

アルジェリア民主人民共和国側参加者数	
1 名	(13-3 アルジェリア民主人民共和国側参加者リストを参照)

整理番号	R-3	研究開始年度	平成 22 年度	研究終了年度	平成 24 年度		
研究課題名	(和文) 北アフリカ由来食薬資源の生理活性機能の評価						
	(英文) Screening of Physiological Function of North African Origin Plants						
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 韓 峻奎・北アフリカ研究センター・助教						
	(英文) Han Junkyu, Assistant Professor, The Alliance for Research on North Africa, University of Tsukuba						
相手国側代表者 氏名・所属・職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エジプト: Hany El-Shemy, Professor, Faculty of Agriculture, Cairo University</li> <li>・モロッコ: Hafidi Abdellatif, Professor, Faculty of Agricultural Sciences, University of Cadi Ayyad</li> <li>・アルジェリア: Fatima Laraba-Djebari, Professor, Faculty of Biology, Houari Boumedine University</li> </ul>						
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流						
	派遣先	日本	エジプト	チュニジア	モロッコ	アルジェリア	計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本		0/0	(3/30)	0/0	0/0	0/0 (3/30)
	エジプト	1/30		0/0	0/0	0/0	1/30
	チュニジア	0/0	0/0		0/0	0/0	0/0
	モロッコ	2/20	0/0	0/0		0/0	2/20
	アルジェリア	(1/10)	0/0	0/0	0/0		(1/10)
合計	3/50 (1/10)	0/0	(3/30)	0/0	0/0	3/50 (4/40)	
② 国内での交流						3人/60人日	
22年度の研究交流活動計画	北アフリカ諸国から研究者を日本に招聘し、北アフリカ由来食薬資源の機能性評価を行う。具体的には、動物細胞を用いたバイオアッセイを活用し、抗腫瘍活性などのスクリーニングを行う。特にモロッコとの共同研究においては、動物細胞を用いたバイオアッセイを活用し、モロッコ原産のアルガンオイル( <i>Argania spinosa</i> )の機能性を解析する。						
期待される研究活動成果	北アフリカ由来食薬資源データベース構築において、北アフリカ由来食薬資源の評価データが加わることにより、北アフリカ地域の食薬資源の地理的、環境的影響の評価が可能となる。また、モロッコ原産のアルガンオイルに新しい機能性が発見されることが期待される。						
日本側参加者数							
4名		(13-1 日本側参加者リストを参照)					
エジプト共和国側参加者数							
2名		(13-5 エジプト共和国側参加者リストを参照)					
チュニジア共和国側参加者数							
0名		(13-2 チュニジア共和国側参加者リストを参照)					
モロッコ王国側参加者数							

2 名	(13-4 モロッコ王国側側参加者リストを参照)
アルジェリア民主人民共和国側参加者数	
1 名	(13-3 アルジェリア民主人民共和国側参加者リストを参照)

整理番号	R-4	研究開始年度	平成 22 年度	研究終了年度	平成 24 年度		
研究課題名	(和文) 北アフリカにおける先端技術を活用した高付加価値化食品製造システムの開発 (英文) Use of Advanced Technology for Development of High Value-Added Food Production System in North Africa						
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 中嶋 光敏・北アフリカ研究センター・センター長・教授 (英文) Mitsutoshi Nakajima, Director and Professor, The Alliance for Research on North Africa, University of Tsukuba						
相手国側代表者 氏名・所属・職	・モロッコ：Hafidi Abdellatif, Professor, University of Cadi Ayyad						
交流予定人数	① 相手国との交流						
(※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	派遣先	日本	エジプト	チュニジア	モロッコ	アルジェリア	計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本		1/10	(1/10)	1/10	0/0	2/20 (1/10)
	エジプト	0/0		0/0	0/0	0/0	0/0
	チュニジア	0/0	0/0		0/0	0/0	0/0
	モロッコ	1/10	0/0	0/0		0/0	1/10
	アルジェリア	0/0	0/0	0/0	0/0		0/0
	合計	1/10	1/10	(1/10)	1/10	0/0	3/30 (1/10)
	② 国内での交流						
	1人/10人日						
22年度の研究交流活動計画	北アフリカ諸国から研究者を日本に招聘し、北アフリカ由来食薬資源の高付加価値化を図るための先端的食品加工技術について研究を展開する。また、北アフリカ現地の食品産業の調査を行い、現地食品産業の技術水準について分析する。特にモロッコ原産のアルガンオイル( <i>Argania spinosa</i> )について、その加工、製品化へのスケールアップを図る手法を開発する。						
期待される研究活動成果	北アフリカ現地の食品産業の技術水準について調査を行い、相手国側研究者と共同で北アフリカ由来食薬資源の高付加価値化を図るための先端的食品加工技術についての解析を行うことで、伝統的食薬資源の加工、製品化へのスケールアップのためのモデルが開発される。特に、モロッコ原産のアルガンオイルの加工による高付加価値化を図る方法が明らかになることが期待される。						
日本側参加者数							
2名		(13-1 日本側参加者リストを参照)					
エジプト共和国側参加者数							
0名		(13-5 エジプト共和国側参加者リストを参照)					
チュニジア共和国側参加者数							
0名		(13-2 チュニジア共和国側参加者リストを参照)					

モロッコ王国側参加者数	
1 名	(13-4 モロッコ王国側側参加者リストを参照)
アルジェリア民主人民共和国側参加者数	
0 名	(13-3 アルジェリア民主人民共和国側参加者リストを参照)

整理番号	R-5	研究開始年度	平成 22 年度	研究終了年度	平成 24 年度		
研究課題名	(和文) 北アフリカにおける有用植物の高度利用と地域発展モデルの構築 (英文) Valorization of Useful Plants for Regional Development in North Africa						
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 柏木健一・北アフリカ研究センター・助教 (英文) Kenichi Kashiwagi, Assistant Professor, The Alliance for Research on North Africa, University of Tsukuba						
相手国側代表者 氏名・所属・職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エジプト: Hany El-Shemy, Professor, Faculty of Agriculture, Cairo University</li> <li>・チュニジア: Fathi Akrouf, Professor, Faculty of Economics and Management, Sfax University</li> <li>・モロッコ: Mhammed Dasser, Professor, Faculty of Law, Hassan II University</li> <li>・アルジェリア: Benali Benzaghrou, President and Professor, Headquarters, Houari Boumedine University</li> </ul>						
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流						
	派遣先	日本	エジプト	チュニジア	モロッコ	アルジェリア	計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本		(1/7)	1/7 (1/7)	(1/7)	1/7	2/14 (3/21)
	エジプト	(1/7)		0/0	0/0	0/0	(1/7)
	チュニジア	1/7 (4/28)	0/0		0/0	0/0	1/7 (4/28)
	モロッコ	1/7	0/0	0/0		0/0	1/7
	アルジェリア	0/0	0/0	0/0	0/0		0/0
	合計	2/14 (5/35)	(1/7)	1/7 (1/7)	(1/7)	1/7	4/28 (8/56)
	② 国内での交流					2人/35人日	
22年度の研究交流活動計画	日本側研究者と相手国側研究者が北アフリカ諸国にてフィールドワークを行い、様々な機能性を持つ北アフリカ原産の食薬植物に日本の食品加工・流通・マーケティング技術を適用することで、その有効利用技術体系を確立し、地域発展モデルの構築に向けた研究を展開する。						
期待される研究活動成果	本研究は、共同研究 R-1 から R-4 を総括するものとして位置づけ、食薬資源に関わる伝統的価値の調査研究に、近代的機能性の科学的検証、食品加工技術、流通・マーケティング等の分野を連携させることにより、北アフリカ特有の食薬資源を地域経済開発に生かす発展モデルの構築が期待される。これにより、北アフリカを共通のフィールドとし、食薬資源による地域開発を軸にして、文理連携・融合研究を展開させることができる。						
日本側参加者数	5 名	(13-1 日本側参加者リストを参照)					
エジプト共和国側参加者数	1 名	(13-5 エジプト共和国側参加者リストを参照)					
チュニジア共和国側参加者数	5 名	(13-2 チュニジア共和国側参加者リストを参照)					

モロッコ王国側参加者数	
1 名	(13-4 モロッコ王国側側参加者リストを参照)
アルジェリア民主人民共和国側参加者数	
1 名	(13-3 アルジェリア民主人民共和国側参加者リストを参照)

10-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会 アジア・アフリカ学術基盤形成事業：マ グレブにおける有用植物の新機能性研究と持続的地域発 展
	(英文) JSPS AA Science Platform Program: Seminar on New Functions of Useful Plants for Sustainable Regional Development in the Magreb
開催時期	平成 22 年 7 月 10 日 ～ 平成 22 年 7 月 10 日 (1 日間)
開催地 (国名、都市名、 会場名)	(和文) 日本、つくば市、筑波大学
	(英文) Japan, Tsukuba, University of Tsukuba
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 柏木 健一・筑波大学北アフリカ研究センター・助教
	(英文) Kenichi Kashiwagi, Assistant Professor, The Alliance for Research on North Africa, University of Tsukuba
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	—

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (日本)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	18/90
エジプト 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	0/0
チュニジア 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	0/0
モロッコ 〈人/人日〉	A.	2/10
	B.	0/0
	C.	0/0
アルジェリア 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	0/0
合計	A.	2/10

〈人／人日〉	B.	0/0
	C.	18/90

A.セミナー経費から負担

B.共同研究・研究者交流から負担

C.本事業経費から負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>本セミナーでは、北アフリカのマグレブ地域固有の有用植物に地域発展につながる新たな産業化シーズを開発することを目指して、モロッコ原産の有用植物が持つ機能性解析に関するセミナーを開催することを目的とする。特に、動物細胞を用いたバイオアッセイ技術、抗腫瘍活性等のスクリーニング等を駆使した機能性評価法について議論を深め、モロッコ原産のアルガンオイルの機能性解析研究について展望を報告する。かかるセミナー開催を通して、若手研究者が主導して、モロッコを含むマグレブ地域における食薬資源の機能性解析研究の基盤を形成する。これにより、高度の専門性と専門性の高度化に必要な俯瞰力・実践力・構想力を持つ若手研究者の育成を図る。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>本セミナー開催においては、若手研究者が事業実施の主体となり、R3で提案した共同研究課題「北アフリカ由来食薬資源の生理活性機能の評価」の展望を報告する。特に、北アフリカをフィールドとした食薬資源の機能性解析研究の基盤を築くことができる。若手研究者は、かかるセミナー開催等の実働を通して、自らも実践的人材育成を展開できる。</p> <p>また、本セミナー開催においては、具体的には以下の到達目標を設定することで、今後の研究活動の指針を得ることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 北アフリカの乾燥・半乾燥地域における食薬資源の機能性解析研究の拠点を構築することを目指して、バイオサイエンス分野における研究を深化・発展させる。</li> <li>(2) 北アフリカのイスラーム社会への定着性・持続可能性を視野に入れた食薬資源の機能性解析研究を展開する。</li> <li>(3) 若手研究者がバイオサイエンス分野における専門性を習得、深化すると同時に、異なる専門分野の知見・思考方法を理解し、自らの専門性の高度化に役立てることができる文理融合研究の素養の育成と醸成を図る。</li> <li>(4) 北アフリカにおける食薬資源の機能性解析研究を基軸に、北アフリカから環地中海地域に展開する新たな研究プロジェクトの立案について、相手国側研究者と共同して構想を練ることができる。</li> </ol>

セミナーの運営組織		<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任者兼コーディネーター：柏木健一（筑波大学北アフリカ研究センター助教）</li> <li>・事業推進委員会：中嶋光敏（筑波大学北アフリカ研究センター教授）、礪田博子（筑波大学北アフリカ研究センター教授）、森尾貴広（筑波大学北アフリカ研究センター講師）、韓峻奎（筑波大学北アフリカ研究センター）、川田清和（筑波大学北アフリカ研究センター助教）、岩崎真紀（筑波大学北アフリカ研究センター研究員）、</li> <li>・事務局：沢邊喜久夫（筑波大学北アフリカ研究センター次長）、齋木勝美（筑波大学北アフリカ研究センター主任）</li> </ul>	
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容	国内旅費 20,000 円
			外国旅費 400,000 円
			外国旅費・謝金に係る消費税 20,000 円
			合計 440,000 円
	( ) 国（地域）側	内容	金額
	( ) 国（地域）側	内容	金額

### 10-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

#### ① 相手国との交流

派遣元	派遣先	日本 〈人／人日〉	〈人／人日〉	〈人／人日〉	計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉					
〈人／人日〉					
〈人／人日〉					
合計 〈人／人日〉					

#### ② 国内での交流 人／人日

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等

### 1 1. 平成22年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	80,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	4,200,000	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	510,000	
	その他経費	0	
	外国旅費・謝金に係る消費税	210,000	
	計	5,000,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		500,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		5,500,000	

### 1 2. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	0	0/0
第2四半期	2,000,000	14/160
第3四半期	1,300,000	9/72
第4四半期	1,700,000	10/121
合計	5,000,000	33/353